

# ずいひつ No.169

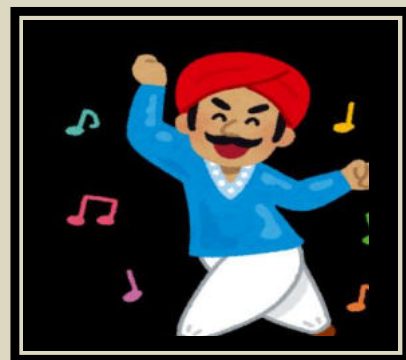
2024年7月25日発行



## 映画と原作のステキな関係

皆さんは、時間ができると何をしているだろうか。私はよく映画を見る。テレビやサブスクリプションで観ることもあるが、なるべく映画館で観るようにしている。大画面の迫力と大音響が心の奥底まで響き渡る感触、同じ空間を共有した人たちとの不思議な一体感……。映画館は私に非日常的な刺激と癒しを同時にもたらしてくれる。最近の映画館では映画だけでなくスポーツ観戦をしたり、音楽のライブビューイングを楽しんだりすることもできる。また、映画も新作だけでなく、名作のリバイバル上映などがあり、映画館の楽しみ方にも選択肢が広がっている。

お勧めの映画はマイナーだがインド映画。突如歌って踊るイメージが強いが、1本の映画の中に恋愛・家族愛・友情・社会問題・ミステリー等々、いろいろな要素がこれでもかと詰め込まれ、まさにエンターテインメントの宝石箱のようである。一押しは『きつとうまくいく』。大学で何を学ぶべきかが重要なテーマの一つであり、大学生の皆さんにはぜひ観てほしい映画である。もちろん、大学生をとっくの昔に過ぎてしまった方にも楽しめる内容なのでご安心を！



最近の映画の楽しみ方。それは、原作の小説も読むこと。私の場合、映画を観てから原作に触れることがほとんどであるが、映画では描き切れていなかった細かい描写がストーリーの理解をより深め、映像を彩り豊かに思い起こさせてくれる。原作のこの部分が映画ではあのシーンになっていたのか……。とか、ここの解釈が違っているな……。とか、まれには結末が全く違って、えっ！！となったりして面白い。そこには映画だけ観たり、原作を読むだけでは気づかなかった世界が相乗効果で大きく広がっている。

原作と映画のタイトルが違っていることもあってやっかいだが、一般的には映画から先に観たほうが原作を探しやすいであろう。ここでは、個々の作品を挙げることはせず、ちょうど8月～11月に楠元図書館1Fの軽読書コーナーで「ようこそ！映画と原作の世界へ」の展示を行う予定なので、そちらに譲りたい。私もこれを機に、原作に先に触れてから映画をみるパターンにも挑戦していきたい。映画の原作を探さずともすぐに手に取れる機会なので、皆さんも是非とも、映画と原作のステキな関係を堪能してほしい。

(インド映画好き新人司書)

